【教材・教具名】 マメアート	【教科・領域】 美術・造形	【対象】 小学部 5 年生

【ねらい】

・豆遊びの延長で，音や感触を楽しみながら制作することができる。

〇教材の使い方



〇紙袋の中に色を付けた豆を入れて，振ったり叩いたりして色を付ける。

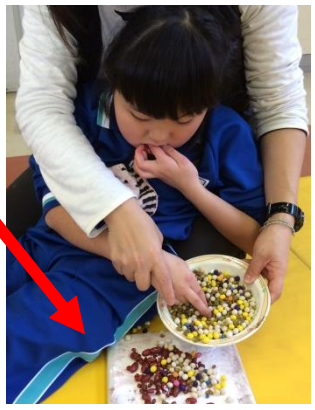
〇大きさやかたちの違う豆を　用意する。

〇一つの皿に一色ずつ作る。





〇ボードにボンドをつける。色を付けた豆をボードに落としボンドと手で混ぜる。



〇工夫点

・様々な大きさのマメを用意し，振ったときに出る音や，絵の具の付き方などが変わるようにした。

・感触を楽しめるように，色をつけた豆を貼る制作も行う事にした。

・友達と一緒に制作を楽しめるように大きな袋での作品も作る事にした。

〇効果・改善点

・色々な大きさのマメを使用することで音の違いを感じることができた。

・袋を開けずに光を当てて袋の中をのぞくかたちにすることで，子ども達ものぞいて見る楽しさがあった。

・色がついた豆をボンドと混ぜて貼ることで，感触を楽しむ様子が見られた。

・大きな作品を作る時には，足をばたばた動かしたり手で袋をつかんで動かしたりして，友達と楽しそうに制作する様子が見られた。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
「革魚（かわうお）づくり」	美術・造形（作業学習）	中学部１～３年生

【ねらい】

・キーホルダーを作った余りの革（廃材）を有効に使って製品をつくる。

・できるだけ簡単な工程で製品を完成させる。

〇教材の使い方



←①中学部の作業班・革工芸班では「創立３０周年記念キーホルダー」を制作。



←廃材としてこのような余りの革が大量に出た。これを再利用して製品をつくる。



パッケージデザイン

②革同士を連結して製品をつくるため材料を準備する。

・余りの革　三角形３枚

・革ひも（１０㎝）×２

・ウッドビーズ大２・小１

・ストラップ部分のひも１

・連結リング金具１　他





③パンチング器具で頭と胴体には３つ，しっぽには１つの穴を開ける。

④開けた穴に革ひもや金具を通し連結させる。





⑤完成

革の魚「革魚（かわうお）」ができた。

⑥ラッピング

パッケージングも製品の魅力を伝えるデザインにこだわった。



〇工夫点

・廃材の形を生かした製品のデザインを考えることで極力，加工する工程を少なくした。

・組み立てに難しい道具を使わないようにし，どんな生徒でも作れる工程を考えた。

〇効果・改善点

・部品数や工程が少なく，手先が器用でない生徒も取り組むことができた。

・魚という分かりやすい形になるので，生徒が意欲的に制作に取り組んだ。

・リングの金具を付けるところは生徒には難しい作業であった。代わりになる素材を再検討する必要性を感じた。

・廃材利用という点は製品化すると感じられなくなり，製品として販売も成功した。

【教材・教具名】 キネティックサンド（市販教材の活用）	【教科・領域】 図工・美術	【対象】 中学部１年

【ねらい】

・砂遊びの感覚で室内でも、砂のような感触を楽しむことができる。

〇教材の使い方



・「動く砂」と呼ばれるキネティックサンド。

・室内でも、砂遊びのようにして、遊ぶことかできる。

・軽く握ると、ゆっくりと流れるようにくずれていき、その感覚が見た目にもおもしろい。

・握って形を作ったり、型を取ったりもできる。

〇工夫点

・市販品なので、教材作成に工夫はありませんが、生徒によっては、セットになっている容器では小さい場合があるので、シートを敷いて対応しました。

〇効果・改善点

・上記したように、楽しむことができる。

・汚れることが苦手な児童・生徒にも、手が汚れないことに気づかせることができる。手が汚れないことが分かると，抵抗が少なく感触を楽しむことができた。